

H25. 11. 23

戦前からあった治療法



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。55歳。

「テストステロン(男性ホルモン)を測ってほしい」と希望する壮年男性が時々来院されます。甲状腺ホルモンなどの測定と同様に、血液検査で簡単に分かります。テストステロン値は、朝が高くて夜が低くなります。先週述べたようにLH症候群が疑われる人であれば、保険診療での測定が可能です。しかし無症状の人は、健康診断と同じで自費診療となります。



「男性医療」シリーズ⑥

テストステロン補充療法の実情

から行われています。

戦前の雑誌「改造」に「精神衰弱にテストステロンを」という広告が載っています。当時の神経衰弱とは、現代の「うつ」に相当するものです。その時代から、テストステロンの効果は分かっています。

では、なぜ現代ではあまり知られていないのでしょうか。ひとつには、テストステロンは強壯剤のようなイメージがあり、戦後の混乱期に出回った覚醒剤と混同されていたことがありますが、筋力を高める作用があるため、国際オリンピック委員会(IOC)からドーピング検査の対象に指定されたことも関係あるでしょう。

しかし、使用量を守れば重大な副作用はないので、海外ではテストステロン補充療法が一般的に行われています。日本でも、テストステロンに着目した治療を高齢者医療に応用すべきではないかという機運が高まっています。

日本の保険診療で認められているテストステロンの注射剤は、1回打つと約10日間持続します。海外では貼り薬や飲み薬もありますが、日本では注射薬だけです。インターネット販売で経口薬が入手できるようですが、

ある大病院のメンズヘルス外来ではテストステロンの値が低い人にホルモン製剤を使うのは3割程度で、残りは漢方薬治療だそうです。ED(勃起障害)を主訴とするLH症候群の人にはバイアグラなどのED治療薬のみで対応されています。いずれにせよ、古くて新しい男性ホルモン医療はまだ始まったばかり。必ず専門医の診断と処方を受けてください。

が一般的に行われています。

日本でも、テストステロンに着目した治療を高齢者医療に応用すべきではないかという機運が高まっています。

日本の保険診療で認められているテストステロンの注射剤は、1回打つと約10日間持続します。海外では貼り薬や飲み薬もありますが、日本では注射薬だけです。インターネット販売で経口薬が入手できるようですが、

ある大病院のメンズヘルス外来ではテストステロンの値が低い人にホルモン製剤を使うのは3割程度で、残りは漢方薬治療だそうです。ED(勃起障害)を主訴とするLH症候群の人にはバイアグラなどのED治療薬のみで対応されています。いずれにせよ、古くて新しい男性ホルモン医療はまだ始まったばかり。必ず専門医の診断と処方を受けてください。

ステロンの値を参考にすべきだという意見もあり、議論が盛り上がりつつあります。男性ホルモンが発見されたのは1931年。ドイツのアドルフ・ブーテナント博士はその研究で1939年にノーベル化学賞を受賞しています。1944年には「アメリカ医師会雑誌」に男性更年期障害に「テストステロンを投与すると良い効果がある」と報告しました。

メンズヘルス外来 男性の更年期障害、LH症候群、EDなど、男性に特有の病気を専門に診療する外来。大病院やクリニックで「メンズヘルス外来」を掲げるところが徐々に増えてきている。

偽バイアグラと同様、お勧めできません。日本のメンズヘルスの専門医は塗り薬、貼り薬、経口剤の早期承認を求めています。現時点では保険適応外薬として使用されています。

ただ、若いうちからテストステロンを長期的に使用すると、精巢の機能が低下して不妊の原因になることがあります。